



〈鶴ヶ島市立藤中学校だより 第8号〉

学校教育目標

ともに学び、未来を拓くたくましい生徒の育成

藤中だより

保護者・地域に信頼される学校を目指して

〈目指す生徒像〉

- よく考え工夫して学ぶ生徒(知)
- 人と自分を大切にする生徒(徳)
- 心と体を粘り強く鍛える生徒(体)

令和7年11月4日 校長 竹田 聡

〈冬に向けて〉

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。10月25日(土)に開催した合唱祭に、多数の方に来校していただきありがとうございました。小雨のぱらつく中でしたが、入退場にご協力いただいたお陰もあり、滞りなく終えることができました。なお、撮影された写真や動画の取扱は、SNSなどにアップすることがないようにお願いします。

10月下旬から、朝晩冷え込むようになりました。登校の様子を見ると徐々に上着を着用する生徒が増えています。本格的な寒さに備え、防寒対策をお願いします。

〈第47回合唱祭 指導講評〉

合唱祭の閉会式で、指導者の先生からいただいた指導講評をまとめました。合唱を通して学ぶことについて、とても具体的なお話でしたので、今後に役立ててほしいと思います。



最初に、素敵な歌声でいっぱいの藤中学校にお招きいただき、ありがとうございます。すごく幸せな時間でした。

最初に1年生。少し戸惑いもあるような姿、精一杯歌う姿、1年生でもとても上手だな、男子は声が変わりきらず出ない音もあり、そんな中でも一生懸命歌っていました。

次に2年生。声が安定して、曲想、曲の雰囲気はどうやって表現しようか、そんな様子がありました。

最後に3年生。すごいなあ。「えっ、こういう歌い方、こういう歌い出しもあるんだ。」と、びっくりしました。歌に対する思いや表現が素敵で、ずっと曲を聴きほれてしまいました。どのクラスも 本当に思いが強く、曲全体を考え、自分たちで話し合い、練習したと思います。その練習が一つの大きな価値として、聞く側の心をとらえてくれました。

歌い終えたときの気持ちはどうでしょうか。「本当にホッとした。自分たちのクラスは最高だね。ちょっと失敗した。」今、少し時間が経ち、どんな思いでしょうか。練習時の友達顔、浮かびませんか。自分がちょっとやりたくなくて、ため息をついた時のこと、思い出しませんか。もしかしたら、言い争ったこともあったのかもしれないですね。それでも、きっと今、自分の心の中に仲間顔が浮かぶと思います。一緒に歌っていなかったかもしれないけれど、担任の先生や、学年の先生とかも浮かぶかもしれません。

合唱は、「責任・思いやり・協力」が必要です。最初の「責任」とは、自分のパートを一生懸命歌い、自分のやるべきことを果たすことです。次の「思いやり」とはパートの仲間と声を合わせるだけではありません。他のパートの音を聴き、「今、私たちは支える側だな。」「今、ここで胸を張って歌うところだな。」とみんなで思いやる。それがなければ、ハーモニーが生まれません。他にもピアノも指揮も頑張っている。「思いやり」をもって歌っていくことが大切です。最後に「協力」とは、みんなが任せ、一つのことに向かっていくことです。長い時間をかけて、皆さんは練習をしてきました。その中で、いろんなことがあってもこの舞台に立った時、一つになったこと、聴く人の心をとらえたのは間違いありません。皆さんの合唱から心が伝わってきました。これからも、もっともっと素晴らしい合唱ができると思います。そのために、お話を2つしたいと思います。

1つ目は、歌詞の内容をよく考えること。作詞者がこの詩を書いた意味、その詩の中にある思いを、それぞれが受け止めてください。そして、その想いを、みんなで話し合い、自分たちのだけの曲に作り上げてください。同じ曲を歌っても、想いの取り方や、伝え方が違えば、曲は違ってきます。自分たちで創り、歌ってください。

2つ目は、楽譜をよく読むこと。楽譜にはいろいろな記号があります。そして作者の気持ちを考え、演奏に乗せることが大切です。例えば、記号の1つに、休符があります。4分休符や8分休符をどのように扱うかで、曲がガラッと変わります。休符はただの休みではありません。

藤中学校の合唱が素晴らしい響きで、たくさんの人の心に、素晴らしい心を届けてくれることがわかりました。審査をするのは非常に大変でした。皆さんの合唱がますます上手になること、1年生、2年生が3年生に追いつき、追い越せるように、頑張ってください。皆さんの歌声、忘れません。楽しい、幸せな時間をありがとうございました。

〈合唱祭審査結果〉

最優秀賞 1年3組・2年1組・3年5組

優秀賞 1年2組・2年4組・3年3組

<自分の街をよくするために>



環境福祉委員会が中心となり、10月下旬に「赤い羽根協同募金」を行いました。今年度は、鶴ヶ島市役所から募金箱等を借りて、登校時から呼びかけを行いました。また、10月30日(木)に、鶴ヶ島市役所でも募金活動を行いました。

共同募金は、戦後間もない1947(昭和22)年に、市民が主体の民間運動として始まり、戦後復興の一助として、被災した福祉施設を中心に支援が行われ、その後、社会福祉法に基づき、地域福祉の推進のために活用されています。共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援する、自分の街をよくする取り組みです。

地域福祉は身近な課題ですので、ご家庭でも話し合いをお願いします。

<ふれあい遊びまつり～幼児ふれ合い体験>

10月28日(火)に、3年生の技術・家庭の授業で、かみひろや幼稚園の園児を体育館に招き、3年生が企画したゲームなどを行いました。

最初は緊張した雰囲気でしたが、徐々に打ち解け、和やかな雰囲気で楽しんでいました。

園長先生は、卒園生の成長した姿に、とても驚かれています。



<生徒の活躍> 埼玉県中学校駅伝大会鶴ヶ島市予選会

女子1位 40' 26大会新 区間賞 2区・3区(区間新)・4区・5区

男子1位 56' 23 区間賞 1区・3区・4区・5区・6区

女子・男子 11/8(土) 埼玉県駅伝大会に出場

<「試」について>

10月14日(火)の学校朝会で、私は次の話をしました。

<概要>

今日は「試」について話をします。まず、「試す」の意味は、実際について真偽・良否・程度などを調べてみることです。では、「試」の後に、どのような漢字が思い浮かびますか。新人戦がありましたので「試合」、中間テストがありましたので「試験」と考えるのではないのでしょうか。

最初に「試合」について話をします。「試合」の意味は、「どちらが上か、勝負すること」です。でも、「試し合う」と書きますので、「これまでの練習が正しかったのか、練習の成果を試す」とも考えられます。

新人戦を終えて、目標に対して納得のいく結果が得られた運動部は、練習が正しかったのだと思います。でも、次は挑戦を受ける立場ですから、相手は、負けて元々で、思い切りぶつかってきます。プレッシャーもなく、伸び伸び戦ってくる相手に対して、受ける側は、本当に厳しい戦いになります。追われる立場で勝つには、私の経験では、1.5倍くらいの力の差が必要だと思います。油断せずレベルアップを目指してください。

残念ながら悔いが残る結果となった部活動は、練習方法を見直す必要があると思います。同じ練習では、同じ結果になるとしますので、課題を検討して、練習を工夫してください。

次に、「試験」について話をします。試験は、「問題や課題を出して解答・実行させ、学習・訓練の成果・習得度や及第・可否・採否を評価・判定すること。」です。「試験」も「試合」と同じように考えるとよいと思います。よい結果につながったことは続け、反省すべき点は改善することが大切です。力を出し切るとは、できる問題は確実に解くことだと思います。でも、ミスは必ず出るもので、大事なところでミスしたら、不本意な結果になります。ミスを減らすためにも、試験の時間の使い方、50分間の配分も考えて、「試験」と同じ状況で練習してみましょう。

勉強も部活動も、できるようになる過程で、楽しみを伴うことが理想だと思います。興味・関心を高めながら、自分のペースでできれば、着実に力を付けることができます。

ただ、「試合」や「試験」には、勝ち負けや順位があります。私の経験では、「試合」も「試験」も結果にこだわり過ぎると、辛く苦しかったことが思い出されます。辛く苦しいことは長続きしません。

お子さんが、楽しみながら取り組めるような支援をお願いします。